

56か国、343大学のネットワーク ISEP加盟 より充実した留学制度へ

中央大学は今年1月、世界各国の加盟校間で学生交換留学を推進する世界的コンソーシアム(大学連合組織)である「ISEP」(International Student Exchange Program、本部・米ワシントンDC、アイセップ)に加盟しました。

ISEPの規模は56か国、343大学以上という世界規模の高等教育機関のネットワークを持ち、世界中で6万人以上の学生がこのコンソーシアムを利用して留学しています。

中央大学はこれまで、海外協定校への交換・認定留学を中心に、留学をサポートしてきました。ISEPへの加盟で、従来の交換・認定留学に加えて、留学先の選択肢が増えることになります。より多くの学生に留学の機会が増え、希望に近い留学が可能になると見込まれます。

留学先はISEP加盟校の中から希望する大学を選んで応募します。選考では、TOEFL、IELTSなどの英語の

学力は基準の一つですが、英語圏以外に留学する場合は、履修に必要な語学を学ぶカリキュラムが留学先の大学で用意されます。

ISEP加盟前の1月上旬に、留学を希望する学生らを対象とした説明会が、多摩キャンパス2号館マルチメディア教室と後楽園キャンパス、市ヶ谷田町キャンパスを映像で結んで開催されました。

日本への留学経験があるISEP大

学関係マネージャーのチエロ・アンソニー・エドワード氏が、ISEPの組織、派遣の仕組みや基準、プランの説明と選び方、現地での留学生活、帰国後のネットワークなどについて、自身の留学経験を踏まえながら日本語で説明しました。説明会後の質疑応答の時間が延長されるなど、積極的に質問をする学生の姿が目立ちました。

留学に関する相談は国際センター(多摩キャンパス11号館)で受け付けています。



1月に開かれたISEPの説明会。大勢の学生が参加した=多摩キャンパス2号館マルチメディア教室